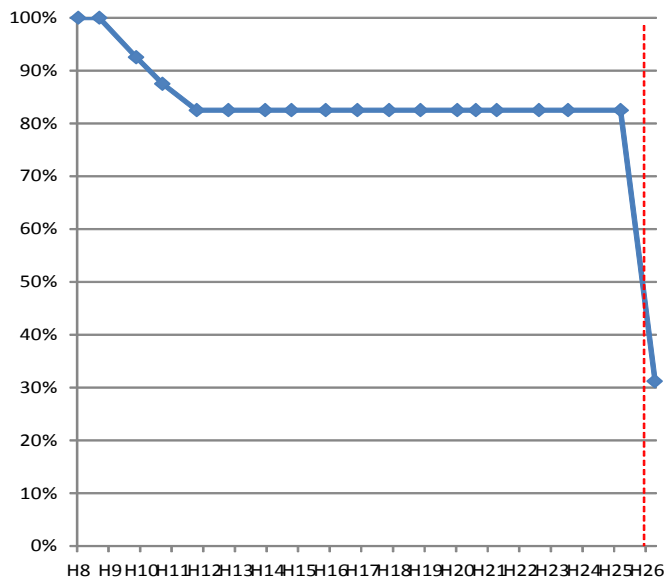


樹種名	シラカシ	
科 目	ブナ科	
学 名	<i>Quercus myrsinaefolia</i>	
分 布	福島県以西の関東地方の山地に主に自生し、この森林帯の北限付近で多く見られ、国外では朝鮮半島南部照葉樹林に多い。 照葉樹林の構成種ではあるが、本州南岸以南では数が少ない。	
樹木特性	半陰樹であり、低地の台地及び丘陵地で生育し、乾燥には弱い。 関東ではアカマツ林やコナラ二次林の中にシラカシの稚樹が出現した。 また、母樹の直下では厳しい光環境のため、稚樹の定着は困難である。	
用 途	公園樹、建築・器具・楽器材として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	138 本／0.07ha (2,000 本／ha)	
特 徴	【樹 形】 シラカシ（白櫟・白樺）は、ブナ科コナラ属の常緑高木、いわゆるカシ類の一種である。名前は、材が白色であることから。樹皮の黒さから「くろかし」の名もある。 樹高は 20m 程度まで成長し、樹皮は黒色である。葉の形は 5~12cm の長楕円形で互生し厚い。上半部の縁には鋸歯があり、上面は濃い緑色でつやがあり、下面は薄い緑。ウラジロガシのように白いわけではない。 花は雄花は 6~9cm の尾状花序で黄褐色、雌花は数花を上向きにつける。果実は堅果で、下部は殻斗（がくと）に包まれる。10 月頃結実する。	
		
	  	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後 2 年を経過した頃からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。	
被 害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害が発生した。（延べ駆除本数：26 本）	

シラカシ 現存率



【現存率】

植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害による枯死が発生した。

平成 12 年度以降の枯死は見られない。

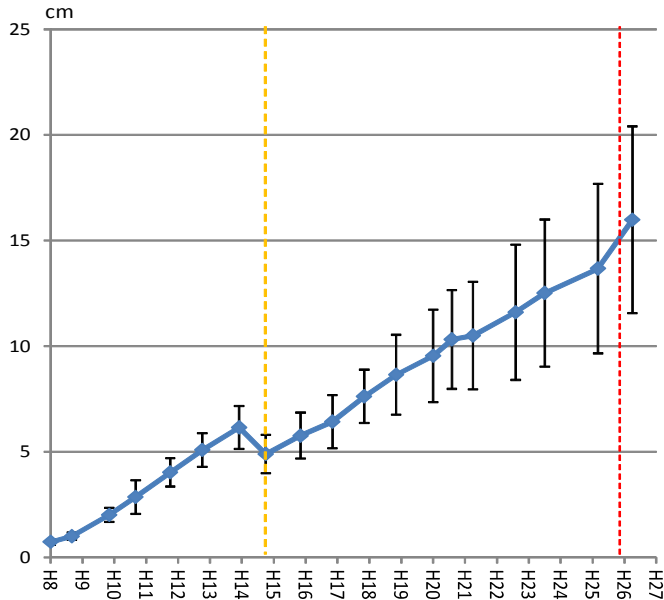
枯死した空き地に、平成 17 年度補植を実施した。

林内の照度調整を図るため平成 18 年、平成 20 年、平成 21 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 31.2%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

シラカシ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

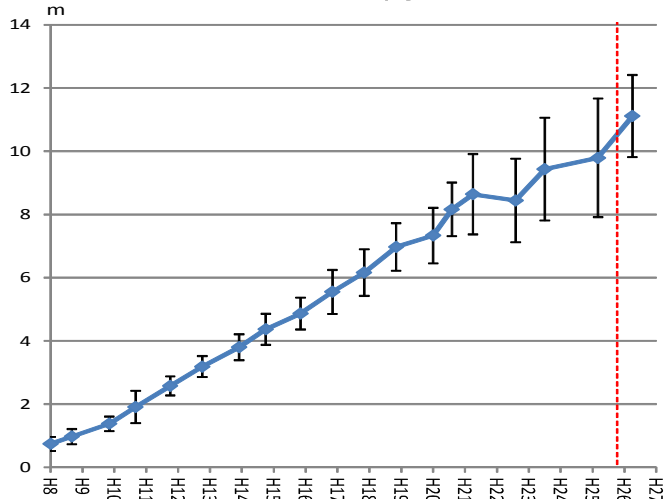
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 15.98 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

シラカシ 樹高



【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 11.1m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

